

東北海区沿岸水温予報(2005年)

海域	経過 (9~11月)	現況(11月下旬~ 12月上旬)	見通し (12~2月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水研発表)	定線観測結果 8月 津軽暖流域の各層水温は、50m層がかなり高め、表面、100m層がやや高め、水塊深度が平年並み、津軽暖流の東方への張り出し位置が平年並み。 定地水温 9月:平年並み 10月:平年並み 11月:平年並み	定点観測結果 12月 津軽暖流域の各層水温は、表面、50m層、100m層ともやや高め、水塊深度が平年並み。 (観測中の12月定線観測による暫定値) 定地水温 11月下旬~12月上旬:平年並み	津軽暖流域の水温はやや高めから平年並み。 津軽暖流の東方への張り出しは、平年並み。	観測中の12月定線観測結果では、各層とも高めの傾向である。 12月の日本海の定線観測結果では、対馬暖流の流勢は平年並み。	9月以降、エチゼンクラゲの大量来遊が継続 八戸港で、イナダが1月に半旬合計で200~600トンの水揚げ
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水研発表)	9月 表面:全域でやや高め~高め 100m:黒崎沿岸10海里以内と椿島沿岸10海里以内でやや低め~低めのほかは平年並~高め 10月 表面:トドヶ崎沖合50海里から尾崎沖合50海里にかけてやや低め、椿島沖合30~50海里にかけてやや高めのほかは平年並 100m:黒崎沖合30~50海里からトドヶ崎沖合30~40海里にかけてやや低め~低め、トドヶ崎沖合10~20海里から椿島沖合20~50海里にかけてやや高め~高めのほかは平年並 11月 表面:概ね平年並~やや低め 100m:トドヶ崎沖合20海里付近でやや高めのほかはやや低め~低め	表面は、平年並~やや低めとなっている。 (衛星画像より)	沿岸は平年並、沖合はやや低めで推移する	沿岸は、津軽暖流の沿岸に沿った南下勢力が継続し、金華山沖の暖水塊が持続すると予想される。 沖合では、中層に親潮系冷水の分布が見られることから、予測期間中の親潮第一分枝の流入が予想される	エチゼンクラゲが岩手県沿岸に大量に来遊し、定置網への入網が多数確認されている。 県北部でのスルメイカが好調(いか釣り・底曳網)
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水研発表)	9~11月の表面水温は、概ね平年よりやや高め~極めて高めで推移した。特に9月は142°10'Eを中心とした北中部毎域に26台の暖水が波及し、極めて高めとなった。これに対して同期の100m深水温は平年より低め基調であった。9月と11月には5以下の親潮系冷水が散発的に見られ、これらの海域では平年より低め~極めて低めとなった。	11月下旬の表面水温は13~17で、平年よりやや高め~高めとなった。100m深では、南部沿岸と北部沖合の一部に平年よりやや低めの水が見られた他は、平年よりやや高め~高めの水で覆われた。	142°E以西の沿岸海域と北部沖合海域では平年並で推移するが、他の海域では平年並~平年より高めで推移する。	「宮城県沿岸の海況予測モデル」により予測を実施。2005年12月の類似年は1986年12月。親潮第1分枝出現領域の冷水域は南偏傾向が強いが、見通しではこの影響を加味していない。今後、平年的には親潮第1分枝の南進期となるが、これに伴い冷水波及が強くなると、沖合海域を中心に予測が外れる可能性がある。	・巻網によるサバ類好漁。 ・一本釣り、巻網によるカツオ好漁。 ・11月中旬の調査時、金華山南部海域のサバ巻網漁場でイルカの大群確認。 ・10月上旬以降、エチゼンクラゲの来遊を定置網、刺網などで確認。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	9月:富岡沖65海里付近に親潮系冷水の水塊がみられるものの、広い範囲への波及はみられない。黒潮系暖水が30~150m深付近の範囲でごく灘側まで波及している。水温は平年よりやや低め。 10月:親潮系冷水の目立った波及はみられない。黒潮系暖水が50~200m深付近の範囲で灘側まで波及している。水温は平年並み。 11月:親潮系冷水の目立った波及はみられない。黒潮系暖水の勢力が強く、100~200m深付近の範囲を中心にして灘側まで波及している。水温は平年並みであった。	親潮系冷水の北よりの波及傾向が一時みられたものの、沖合の暖水塊の接岸に伴いその勢力は弱まり、沖合よりの暖水の波及傾向がみられる。 塩屋崎沖50海里より沖合に沖合より回りこんだ親潮系冷水の波及がみられる。水温は塩屋崎沖・鶴ノ尾崎沖とともに平年並。	暖水塊の影響により親潮系冷水の勢力は弱めで推移するとみられる。黒潮系暖水の勢力は現状並みで推移し、水温は全海域で引き続き平年並みと予測される。	12月に入り、本県北東沖合に暖水塊がみられ、北より親潮系冷水の波及しにくい海況となっている。自己回歸モデルによると、期間全体・全海域で予測水温偏差は平年並みで周辺海域における偏差の偏りはみられないと予測された。	・8月より漁が本格化したシラス漁は11月までの累計で過去10年平均水揚量の約2.5倍となり、ここ10年で最も好漁であった2001年を上回る水揚げとなった。 ・2003年以来1年ぶりにエチゼンクラゲの大量来遊がみられた。
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	8~9月:黒潮系暖水が北部から流入し、表面水温は上昇し平年並みまで回復したが、冷水域の影響が残った中層では極めて低い~やや低いで推移した。 10~11月:黒潮系暖水が北部より波及。黒潮は犬吠崎で1離岸。沿岸水温は概ね平年並みとなった。11月には黒潮が接岸し、鹿島灘南部では一時水温が上昇した	12月:黒潮は、N型で犬吠から東へ流去し、犬吠崎から房総へ南下した。黒潮系暖水が北部より波及。表層は降温したが中層では若干昇温した。	常磐海域は期間を通じて親潮系冷水の影響下にはいり、沿岸水温は「低い」で推移するが、黒潮の離岸変動に伴い、規模な暖水舌が鹿島灘南部に形成され、この水域では一時的に「平年並み」~「やや高い」となる。	房総から九州の海域で、黒潮に目立った蛇行が見られないので、黒潮はN型で持続し、流路は大東崎から犬吠崎の間で南北変動を繰り返す。 現段階では親潮の南下は平年並以上の判断はできないが、1月に親潮系冷水が常磐海域に南下する。	エチゼンクラゲが9月以降まき網、底曳き、船曳網等に混獲

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い (7.5%)	+1.6 ~+2.3	+2.5 ~+3.9	4.0 ~+5.9	+1.6 ~+2.3	+2.5 ~+3.9	+2.5 ~+3.9
やや高い (20%)	+0.7 ~+1.5	+1.0 ~+2.4	1.5 ~+3.9	+0.7 ~+1.5	+1.0 ~+2.4	+1.0 ~+2.4
平年並み (40%)	+0.6 ~-0.6	+0.9 ~-0.9	1.4 ~-1.4	+0.6 ~-0.6	+0.9 ~-0.9	+0.9 ~-0.9
やや低い (20%)	-0.7 ~-1.5	-1.0 ~-2.4	1.5 ~-3.9	-0.7 ~-1.5	-1.0 ~-2.4	-1.0 ~-2.4
低い (7.5%)	-1.6 ~-2.3	-2.5 ~-3.9	4.0 ~-5.9	-1.6 ~-2.3	-2.5 ~-3.9	-2.5 ~-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~